京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年

本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金四十五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢

月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)

廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一圓▲五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人 高木久[illegible]太

印刷人 松久神一郎

京城西署西小門通(電話六六三)

發行所 京城新報社

基督教演説會

(八日[illegible]座に於て)

[illegible]の[illegible]精神なり[illegible]を一[illegible]八日[illegible]に於て開[illegible]は定刻一時間前より満[illegible]か[illegible]もなく[illegible]入場を謝絶した[illegible]會[illegible]の[illegible]し第一[illegible]氏は「[illegible]」と題し古來[illegible]民の祖に[illegible]の[illegible]を闡明し[illegible]思想が[illegible]を[illegible]大[illegible]は父なる彼の神と稱すべしと云へる基督の[illegible]する神[illegible]するものと論[illegible]基督教は[illegible]民の信念と[illegible]向上せ[illegible]と[illegible]力を[illegible]ものなりとなし神と[illegible]は宇宙の真理なり[illegible]天地の真理[illegible]の祖に[illegible]すれば眞理なりされど宇宙を一家族と見るときは真理は父なる神なり宗教家は宇宙を一家族と見[illegible]天の[illegible]天地の唯一の神とアバ父よと仰ぎ奉るに至るなり云々と論結し満堂の喝采を博し第二[illegible]老名彈正氏は「人類同胞の大義」と題し現韓國に在る同胞諸君に此大義を論ずるを光榮とすとなし國民か人類同胞の大義を知るに至るは人心の[illegible]上非常なる進歩なりとて世界の[illegible]大國民及日本國民が段々此大思想に進みつゝあるを論證し人類同胞主義は政治上の國内より進んで宗教の深き世界に入りて認むることを得べく而して宗教に國民的宗教、世界的宗教の二種あり人類同胞なる觀念は只だ自國民だけを神の子とする國民的宗教に於て認むるを得ずと云ひて此思想を打破したるものは佛教及基督教なりとて釋尊の大慈大悲は人類的なり佛教は一面に於て無[illegible]を明にし他面人間各自尊貴なる佛性[illegible]めたりとて其世界的宇宙的なる[illegible]を推奬し基督教がユダヤより[illegible]たるユダヤの宗教にあらず基督教に於ても同じく二方面あり一は人間の[illegible]に病あると即ち罪なる觀念にして之に克つは[illegible]あるのみ他は新に生るゝの實[illegible]より神の子となる事なり神の子の[illegible]も有するはあらず人間[illegible]れも持ち得べき[illegible]を有する點に於て[illegible]に於て[illegible]的人類的なり而して此大義を明にしたる偉大なる人格はキリストなり彼はユダヤに生れたるも世界的人格なりと論じ更に今[illegible]を[illegible]進歩の努力となれるもの[illegible]民族と民族を[illegible]べし、されども人類同胞の大主義は終始一貫せり我日本國民は[illegible]より人類的發展に向へり國防は是[illegible]として偉大なり而して今日國民的[illegible]の精神にして今日は自から國民の精[illegible]する時に至れり余は世界的膨[illegible]の[illegible]者を知る壯快[illegible]民的精神は[illegible]く[illegible]ならするを得んや國民的精神は飽くまで[illegible]なり然れども世界的人類的精神は[illegible]を更らに偉大ならしむるものなり余が三拾年來一意基督教の宣傳に力[illegible]る[illegible]の精神に外ならずと論斷し[illegible]堂立錐の地なきに拘らず水を打[illegible]たるが如く靜にして處に至るか如拍手喝采の如し昨夜の第二回大演説會も盛會なりし由

攝政王邸の爆彈

去二日北京十刹海なる攝政王邸東側に於て爆裂彈を發見したる次第は北京特電の報ずる所なるが右に就き其筋への着電には二日夜攝政王邸前の橋下に於て頗る精巧なるダイナマイトを發見したるが之と同時に橋下より一人の曲者逃走せるより守衛は直に追跡したるも遂に捕縛するを得ず翌三日直隸省に於て數名の革命黨員らしき者逮捕せられたるが王邸の曲者も亦革命黨と關係を有するが如し云々とあり電文のみにては其詳を知る能はざるも今北京の事情に精通する某外交官の談を聞くに攝政王邸は南面し大道路を距てゝ十刹海と呼ぶ大池と相對し正面には大小の二門あるも此附近一帶は殆ど十歩に一人位の割合を以て支那兵の警衛頗る嚴重なれば如何に巧妙の手段を以てするも門内に忍び入て爆彈を裝置したるものとは思はれず然らば電文に所謂橋下とは何處なるかと云ふに邸の東南隅大道上に架する小石橋と見るを至當とするも此の如き公道に爆彈を裝置したりとて却つて一般通行人に危害を及ぼしてそれ眞一には革命黨の期するが如き大目的を達することは到底不可能の次第と云ふべし左れば假令革命黨員の所爲でするも彼等は是に由りて眞實其目的を達せんと欲したるに非ざるべく要するに清國一流の脅嚇手段に外ならざるべしと

●黒鉛の産額と將來

韓國に於ける黒鉛の産額は年々其の數を増加し一昨年は六千五百噸なりしも昨年は八千噸の輸出を見るに至れり其産出地としては咸鏡北道鏡城郡、忠北[illegible]山郡附近、慶北咸昌郡平北宣川郡附近江原道、江原郡附近等重なる[illegible]に於ては墺太利を最とし[illegible]以太利等の主産地に次で[illegible]北米等なり而して日本の産額は[illegible]て四五年前迄は僅かに八[illegible]るに韓國にては[illegible]産額る[illegible]り當業者が[illegible]の方法を講じて採掘を為すと同時に[illegible]する時は現下の相場平均二十圓のものも二三百圓までに騰貴せしむることを得るなるに未だ此域に達せざるは斯業者の大に注意すべき點なりと云ふ

●李在明起訴せらる

目下京城監獄に繋留中なる李在明は來る十二三日頃總勢十三名と共に起訴せられ其他は證據不十分にて放免せらるゝ模樣なるが起訴の事實は彼等一味の者が日韓協約及合邦問題に憤慨し李在明を中堅として平壤を策源地と爲し遂に京城へ入込たるまでの道筋なるが兇行の當日は共[illegible]大韓每日申報紙上にて李首相の[illegible]教會堂へ詣るを知り愛に準備を整へ同志一人と現場に駈け付け以て兇行に及びたる由なれば兇行の現場には同一人の共犯者ありたりと云ふ尚は辯護士は李在明が妻の依頼に依りて日本人辯護士二兩人辯護を爲すに至るべしと

▲朴泳孝の近狀

一時種々の風說ありし朴泳孝は去る三月十日當馬山新昌里通商社へ移轉後庭内に園亭を設け僕丁をして耕さしめ或は娼妓を伴ひ郊外に散策を爲し時には妓生樂手等を招きて酒宴を催ほし又政治に關せざるものゝ如し彼れは安價なる土地を買求め農業を營み樂みとするものゝ如く馬山地方は地價高き爲め適當の地を得るに困難し居る由なるが濟州島に在る際は桐苗二萬本を植付たりと云ふ

日本銘刀傳

第八十八席 法城寺正弘(十) 邑井一貞口演

「貴方にも相談なしにですか」「大ア、相談どころか、一言の挨拶もないだ、實は一昨日貴方の留守のに、少し遲く[illegible]靜まつて居ると思つて[illegible]戸が閉つて貸家の札が貼つてあつたから、俺も鼻毛を拔かれたので、思はず[illegible]とした、夫れとはなしに近所の人の話しを聞いて見たら、國へ行くと云つたとのことだが、まア何にしても突然に[illegible]驚いたよ」「だつて夫れでは餘り水くさいではありませんか[illegible]が[illegible]やつて[illegible]ながら、一言の相談[illegible]も[illegible]へ行くと云ふのは、甚だ[illegible]ないぢやアないか、何と云ふ[illegible]の取りやう[illegible]世間[illegible]したのに、顔を出さず一言の斷りもなくと思へば怒りもするが、眞底が女だ、それを[illegible]勝をば、鐵さんの樣にしたのはそれくさんに取つては、何んなに感情を害ししたかも知れず、夫れに彼の一件を々世間に知れて居る所へ、それが別になつて嫁を取ると云ふやうな譯になつたから、女の狹い了簡で、氣恥かしく思つて國へ引込んだのかも知れない、さへそう云ふ次第になると、俺から手紙を茂原へ出すと云ふ次第にも往かず、れ前よりも飛出すと云ふわけにも往くまい、そうかと云つて是れなり音信不通にも出來ず、誠に困つたことが出來たのだ」と例ながらの親切者、眉を皺めて心配顔、それを藤三郎も是れと云ふ智慧も出ないが「何しろ私より總手紙同樣の者を一本茂原へ出して見ませう、まうすれば彼方の念も届く道理だから、捨てゝは置けませんから、るうし意見をしやう」と云ふことになつて、後は世の中の雜談から、れかつの身體のことになり、大切になさいと云ふ挨り文句が別れ言葉で、次郎兵衛は歸ります、藤三郎は直ぐに手紙を書いて、上總へやつたが返事は來ない、尤も今の郵便とは違ふから、今日出した手紙は必ず明日着くと云ふではなし、島屋と云ふ飛脚屋へ使を遣つて、頼むと云ふわけなのであります、だから何時返事が來ると云ふ當りはない、今日來るか明日來るかさ、待つて居ても仲々來ない、其内に段々に月日が經つたので去るものは日々に疎しとやらで、忘れると云ふ譯ではないが、得意揚の納め物だ、直しものだと催促が來るので、其忙しいに取紛れて居るうちに、れかつが産の氣が付いて、夫れ産婆だそれなど頼めと云ふうちに、案ずるより産が易いと云ふ譬の如く、觀世音樣の掛物や、觀音樣のお守を出す間もなくオギヤーと、一聲女の子が産れました、取上げながら婆さんが世辭を振まいて



『結構なれ子さんで、れ嬶さんに酷似しです、眼の大きい所は旦那樣に似て……』と就をさしてさい頭形が脇くなると云う赤兒まだどう、觀るか分りませんのに、何の彼のとの愛嬌言葉、是れも産婆の常であります、二人共に肥立も宜しく、二三十日も經つたれ勝はもう臺所を働くと云う始末、赤兒は名を付ける、次郎兵衛さんが名付親で、れはなと命けて初孫の可愛さ、以前は一月に一返位しか來ぬ次郎兵衛が、此の頃では、やれ觀音樣の歸途だの、親類の寺參りの戻りだのと名を付けてはれはなの顔を見るのが、何よりの樂みだ其のうちにれはなも段々成長するに從つて、智惠の付くもので笑ふ顔の愛らしさ、れかつさん、たつかさんと敬ねるに、從つて、口も利きますから、利發を自慢の親心、先づ一家無事に世を渡つて居りました、所へ或日上總の茂原なる名主平左衛門から、藤三郎へ宛の手紙が參りました、れかつの名で來るならば格別、名主の名で來るのはチト不審であると、封を解いて讀んで見ますれば、れとくの名前で來ぬのも道理だ、三月程前より熱病にて親子三人枕を並べ、醫者の手當や藥の力も驗無の利益もなく、神や佛に百度も投壹したる擧句の果に、れとくと先きに二人の子まで、歸らぬ旅に趣きましたと思ひ掛けぬ、不孝の便を得ましたから、藤三郎もれかつも共に吃驚致して、早速其の趣きを次郎兵衛へ通しましたから次郎兵衛も驚きましたが、今更據ろないことだからと、佛間へ燈火を點けてれとくの親子の菩提を弔らうてやるとにして、今更人世の常ないことを歎ねたやうな心地が致す、俗に云ふ死者貧乏死んで了へば仕方のないもの、茂原のれとくの所へ香奠の金を送つて事を濟しれみつ、れはなの成長を樂みにして居ります

東京電報

▲東宮演習地へ行啓 東宮殿下は來る十三日葉山御用邸御出發滋賀岐阜兩縣下に擧行の陸軍參謀演習御實視の途に上らせらる筈殿下は御歸途名古屋共進會に行啓あらせらるべし（十一日）

▲曾禰統監に賜品 韓廷より岩倉公葬儀に勅使として差遣されたる禮式課長高義駿は十日片瀨別莊に靜養中の曾禰統監を訪問し病氣見舞の聖旨を傳へ左記兩宮よりの下賜品を贈れり（同上）

皇帝より 赤葡萄酒 二打
太皇帝より 白葡萄酒 二打

▲ブ國へ移民輸送 ブラジル政府の申込みに依り我が政府にては昨年第一期家族移民七百五十名を同國サントースに輸送せしめたるが其の成績比較的良好なりしにより同國政府にては更らに第二期移民千三百名輸送方を希望し來り審案の結果八百餘名の家族移民の輸送を確定し來る十五日嚴船旅順丸にて輸送す

▲品川灣の埋築工事 鐵道院にては品川停車場擴張の爲め品川灣に約八萬坪の土地を借受け埋立工事を起す事に決し愈々七月末より工事に着手し同年度年中約三萬坪の埋立を行ひ來る四十五年四月迄に完了せしむる方針なり（同上）

▲智利の獨立紀念祭 智利政府は來る十八日を以てサンチアゴに於て獨立百年紀念祭を擧行するに付帝國政府に軍艦派遣方を希望し來りたるも艦隊の配備上及經費の都合上之れに應じ難きを以て其の旨回答せり（同上）

▲奧參謀總長の出發 奧參謀總長は今回岐阜滋賀兩縣下に於て擧行する陸軍參謀旅行演習統監の爲め本日新橋發彥根に赴く（同上）

▲中央倶樂部の總會 中央倶樂部にては本日午前十時より代議士大會を開き第二十六議會の報告會を開催せり（同上）

▲師團長會議の經過 師團長會議は本日も引續き陸軍省に於て開會上田近衞師團長以下各師團長石本次官各課長福島參謀次長列席の上本省の諮問案に就て協議正午散會（同上）

▲練習艦乘組員拜謁 海軍機關少尉候補生實地演習の爲め濟韓兩國沿岸航行の途に上るべき軍艦千歲乘込員櫻井海軍中佐以下四十七名は本日午前十時三十分參內 天皇陛下に拜謁仰せ附られ終りて賢所參拜仰せ付られたり（同上）

▲米穀改良會議終了 農商務省に開催せる米穀改良會議は九日を以て全部終了したり（同上）

北京電報

▲攝政王歸邸されず 攝政王は爆裂彈發見當日より各軍機大臣の戒により禁內の儀未た歸邸せず（十一日）

雜報

●鴨綠江架橋協約 今回日清兩國委員の調印を了したる鴨綠江架橋協約の大要は左の如し

一、安奉鐵道期限滿了の際清國は同鐵道と同時に鴨綠江架橋の半部を買收するを得る事
二、架橋竣工の後清國は特に稅關を設け滊車にて出入する貨物を檢査し之に課稅する事
三、船舶又は筏が橋梁を破損したる場合に船主又は筏主は之が損害賠償の責を負はざる事

尙他の一箇條に於いて清國は韓國鐵道の滿洲に直行するを承認せず之が連絡法に關しては追て詳細に協議すべき事を規定せりと

●擴張傳道の盛況 海老名彈正、渡瀨常吉の兩牧師を聘して擧行しつゝある當地組合基督敎會の擴張傳道は甚だ盛況を呈しつゝ居れり

▲壽座の演說會 去八九兩夜に亘れる壽座の大演說會は兩夜共聽衆入口を超へ開會間もなく滿員立錐の地なく入場を謝絕し聽衆中には婦人も尠からず見受たり海老名、渡瀨兩師の演說は共に堂々たる大演說にて滿堂を感動せしめ特に海老名の自我の發展は晋々肺肝をつき其在韓同胞の精神上の立場を論せらるゝところの如きは熱淚ほとばしりて滿堂或に入り劇場は變して嚴肅なる禮拜の靈堂と化したり、其第二夜に於て信仰の決心を表白したるもの四十餘名尙引續き志願者多く遂に五十餘名に達したりと云ふ

▲有志の講演會 日の出町敎會にては當地の重なる紳士を廣通館に招待し兩牧師の講演會を擧行せり會衆は國分總長、俵次官、松井、菊池の兩局長其他當地知名の諸氏百數十名渡瀨氏の信仰とは何ぞや、海老名氏の基督敎の眞髓何れも基督敎の本領を闡明し滿堂靜聽したり

▲說敎會の盛況 日の出町敎會にては會堂手狹の爲め臨時の設備にて取擴めをなし聽衆を迎へつゝある十日午前は男女百五六十名夜は二百七八十名に及び滿員入場謝絕の盛況なり、兩牧師の說敎は愈々佳境に入り聽衆に感動せしめ居れり、且つ韓人の聽集も每回尠からず尙は十一日の婦人大會も盛況を呈し說敎は十二日夜を以て終了を告ぐる筈なり

●島村中將等の謁見 石塚總務長官は豫定の如く十一日午前十一時三十分統監代理として石井武官を隨へ島村第二艦隊司令長官並に佐官以上の將校十四名を帶同し昌德宮に參內仁政殿東行閣に於て韓皇に謁見したり一同は謁見後殿內及動植物園を拜觀したり尙は謁見者氏名左の如し

石塚總務長官、石井武官、島村中將、今井大佐、高木大佐、森大佐、江連機關大佐、奧田中佐、吉田中佐、原中佐、田中中佐、森弘中佐、岡橋團少佐、湯本主計少監、清水主計少監、山下機關少佐、小林軍醫少監

●京龍合併と理事官 京龍兩民團合併問題に關し三浦理事官は九日午後二時より京龍兩民長及兩民會議員を理事廳に招集し協議的に意見を開陳せしが其際理事官の爲せる演說大要は左の如し

本日茲に諸君の來廳を煩はせしは必ずしも合併問題のみを主とする所以にあらず曾ては自分より之を提議せし事ありしが當時は學校其他の急設を要するものありし爲め資金を得るに使なると信じたればなり然れども時勢の推移は大に狀況を異にし現今は更に大なる立脚點より觀察せざるべからず則ち京元湖南の兩線は近々測量に着手され就中京元線は直接龍山と關係あり湖南線も亦京龍と南韓との交通を密接せしめ更に市街電鐵も彼の十五間道路の新設及南大門通總の複線工事は近々開始せられ交通狀態の一變を見んとし韓政府亦南大門停車場間新道路測設中に在り此形勢は京龍兩市の密着を意味するものにして大に注意すべき事なり然れども韓政府の內狀を見るに地方の開發を急とし京城のみに巨資を投じ難き事情あり又東拓會社に對し京城市街開拓を促がせし事あるも規則定款之を許さざる爲め如何ともする能はず故に此際最も多數の居留民を有する吾が京龍兩民團は相當借款を起して民團自身の責任を以て必要事業の遂行を爲すは頗る時宜に適せる事と思考す幸ひ日本に於ける金利は稀有の低下を示めし若し團債發行を爲さば逸すべからざる好機なりと信ず聞く處によれば兩民團合併問題は餘程其交涉の步を進め居るが如し此機運を驅り此金融界の好機に乘せば現任居留地に於ける必要事業を施行する決して難からざるべし尤も合併と借款とは自ら別問題なれば各自名々意見あらん唯だ自分は居留地の大勢に鑑み合併借款共に歡迎する處なり素より合併は如何にして之を實行すべきか又借款の利率手取額據置年限償還資源等は今茲に決定し能はず且つ其計畫に對し監督官廳が全部承認を與ふるや否や明言し得ざるも兎に角此機會に於て雙方より委員を撰出し圓滿に協定の進行を計られん事を望む云々

右理事官の說示に對し各員孰れも其意を諒し午后六時より相携へて花月樓に懇親會を開けりと

●韓國鐵道運輸總會 十日午後一時より韓國鐵道運輸聯合會は京城旭町蝶々園に於て第三回定期總會を開催したるに來會者三十餘名にして昨年度の事業報告及び決算報告本年度の收支豫算加入金會費手數料、暫定會則の變更削除及び附則追加等を議す役員の改選を爲したるに會長立存韓（仁川）副會長岩橋一郎（釜山）理事松原榮（龍山）中村芳松（京城）川添三次（仁川）幹事川村仙二郎（京城）小林兼二郎（平壤）永井幸太郎（大邱）評議員小野和一（釜山）古川文之助（大邱）山北貞助（太田）渡邊友一（京城）田村保吉（新幕）中村喜藤次（平壤）清水五兵衞（仁川）小宮山角次郎（仁川）中條榮造（鳥致院）小濱爲五郎（新義州）河合利榮（砂利院）小川榮吉（開城）の諸氏當選したり

●東洋協會の卒業式 東洋協會專門學校京城分校卒業證書授與式は十日午前十時より大和町同校に於て擧行されたり渡邊大審院長、榊原憲兵隊長、明石參謀長、織寺司法廳長官代理、山邊書記官、中山書記官、古城民長、岡崎遠光氏其の他官民新聞記者百余名韓國側よりは閔宮相、趙農相、李學相、高度相等來賓として參列先づ長は卒業生三十名に對し卒業證書を授與し一場の訓告を爲し趙農相、高度相の祝辭あり木村憲二、金子幸吉の兩氏は日韓語にて答辭を述べ正午無事式を終り夫れより來賓一同に茶菓の饗應あり午后散會せり

●兩民團豫算と團債 京龍兩民團豫算及び民團債を比較對照すれば左の如し

歲入

	京城	龍山
經常部	二六二、七八六	五六、四八四圓
臨時部	四、三四〇	五、〇二〇
計	二六七、一二六	六一、五〇四

歲出

	京城	龍山
經常部	一九二、八三三	五六、六四五
臨時部	七四、二九三	四、八五九
計	二六七、一二六	六一、五〇四

民團債

京城	一一一、三五〇圓
龍山	二六、〇〇〇圓

但し龍山民團は外に四千三百八十六圓八十五錢を有するも明治四十二年度に於て償還の筈にして西鄕主席書記の語る所に依れは出納閉鎖迄に償還の筈

●政友會の總會開催 政友會は來る十五日の土曜日を以て總會（會場未定）を開き曩きに選擧したる總裁閔泳徽以下役員に對して就任の承認を求むる件二三役員を免黜する件を協議し終りて政談演說會を開くべしと尙ほ聞く所に依れば閔泳徽は總裁となる野心滿々たるも曩きに國民演說會の閔泳韶の先例もあり容易に就任を承諾する時は出資を要せらるるを以て逡巡し居れるなり而して高義駿は頃者各官衙を歷訪して政友會は親日を標榜して組織したるものなれば近時の世評は誤解なりと訴ふるが如く辯疏し居りと

●農林學校の卒業式 水原農林學校に於ては去る九日第三回卒業式を擧行したるが來賓には永興君李俊鎔、閔宮相、李學相、趙農相、菊池農商工部次官代理、中村農務局長、宇佐川男爵、觀察使、國川書記官、鄭水產局長等にして一同着席し證書賞品授與の後校長の式辭に次で趙農相の訓辭あり來賓の永興君、李學相、中村局長宇佐川男爵の祝辭あり卒業生總代の答辭にて式を閉ぢ來賓は校內を觀覽したり今回の卒業者は二十九名にして何れも官吏、敎師或は私設團體の技術家として既に奉職の途定まれりと

●韓銀貨幣發行週報（自四月三日至同月九日）

一 銀行券總發行高	一三、二三一、一三一
內 正貨準備發行高	五、一四九、三五七
保證準備發行高	八、〇八七、七七四
二 銀行券平均手許有高	五四三、一九三
三 銀行券市場平均流通高	一二、六九三、九三八
四 補助貨幣發行額（四月九日現在）	六、二四三、五八〇
內 金貨二十圓	一、八五〇、〇〇〇
同 十圓	五〇、〇〇〇
同 五圓	五〇〇、〇〇〇
銀貨五十錢	九二五、五〇〇
同 二十錢	一、七〇九、〇〇〇
同 十錢	九五一、〇〇〇
白銅貨五錢	六六〇、一〇〇
靑銅貨壹錢	二六〇、九六五
同 五厘	八一、〇一五

●統監官邸の午餐會 十日第二艦隊島村司令長官以下左記將校を統監官邸に招待し主人側として石塚總務長官、石井少將、前間通譯官、藤波通譯官列席の上午餐會を催したり

島村中將、今井大佐、高木大佐、森大佐、江連機關大佐、奧田中佐、吉田中佐、原中佐、田中中佐、森弘中佐、岡橋少佐、湯本主計少監、淸水主計少監、山下機關少佐、小林軍醫少監

●御見舞と統監謝電 十日高禮式課長を片瀨の曾禰統監邸に遣はし御見舞として韓帝より赤ブドー酒二打を賜はりたるに就き十一日統監より閔宮相に宛て左の謝電ありたり

本日高禮式課長を御使として本官に御見舞並に御下賜品ありたるに對し謹んで歡慮を謝し宜しく貴官より御執奏あらん事を望む

●大阪人會の盛況 大阪人會春期總會は九日午後二時より臨時變更し會場和樂園に於て開催せり出席者六十餘名にして會則の改正及會計報告等を經て役員改選を爲し木嶋中兵衞氏會長に石井新氏副會長に油田長兵衞氏會計係に當選し外幹事五名評議員十名を會長より指名し終つて酒宴を開き藝妓の手踊り一輪加其他種々の餘興ありて盛況を極め午後九時頃散會したりと云ふ

●女學校敎諭任命 仁川民團立高等女學校敎諭として今回東京美術學校卒業生の柴田勝治氏就任したりといふ

●兩牧師の出發 海老名渡瀨兩牧師は十二日夜の說敎會を以て演傳を終り十三日朝出發歸朝の筈なりと

●櫻井丸仁川歸港 仁川稅關所屬櫻井丸は一昨十日午後三時入港投錨せり

●敍任辭令 左の通り辭令ありたり

任財務官敍奏任官四等 財務監督局主事 中村原治

龍山遊廓問題眞相（本社龍山支局報）

吾人の眼には較重大なるものに映ずる問題も殆んど每に些の遲疑する處無く議了する事を以て居留民の信頼一入なる龍山居留民會に久しく懸案となりて決せざる龍山桃山遊廓問題なるものなるか將た該問題に關する流言蜚語のあり如何なれば聰明なる民團選擧者及居留民會議員を煩はすことの斯くも大甚だ居留民を惑はすに至れるが左に其の眞相を記さん

事實は桃山遊廓の經營者畑某は遊廓地及家屋を抵當として勸興會社に債務を負へり然るに同人は遊廓地に隣接せる數千坪の地所を有せるにより之れを遊廓地に編入されんことを請願せり民長は此の事を以て會々開會中なる民會に議案として提出し議會にては數名の調査委員を選むで之れに附托し調査終了したるを以て愈議會を召集せんとしたる其前日に至り民長は勸興會社重役原勝一氏に呼ばれて其私宅に至りたるに原は民長に向ひ畑に對する債權を有することを告げ遊廓地の擴張は原の希望する處にあらざる旨を傳へしに民長は其の翌日議會延期の通牒を發したり老松町居留野中推弘氏も亦畑に對する債權者の一人なるが這個の消息を聞きて當事者間の調停を爲すと同時に株式會社を組織して總ての債權は株式に引直し斯くして双方の損失を免かれしめ以て遊廓の經營を爲すの計畫を立て勸興會社其他債權者中重なる數者の同意を得て內議略々決し之れを民會の參考に供せしが去入日召集されたる議會に於て委員の報告を遊廓地の擴張を可とするに至りしも議員林武之助氏、野中氏は勸興會社が株式會社組織に同意せりと云ひ且つ其同意書を參考として提出せりと雖ども朝鮮日之出新聞は勸興會社は株式會社組織の事を希望せざる旨を報道せり因て推するに會社が同意書を與へたるは果して其眞意に出でしものなるや頗ぶる疑はし去れば夫等の事の落着を見る迄同案の決議を延期すべしとの動議を爲し採決の結果動議成立して決議を延期することゝ成りたるなり叙上は事件推移の順序にして其の是非を決するは至て簡單なる條理の示す處なるにも拘はらず前記の如く左顧右眄容易に最後の斷案を下す能はざるの狀を示すを以て世人は此間種々の情實纏綿し魂膽伏在せるが如くにも推想し今や重大なる一問題として世の視聽を峙々しむるに至れるものなり然らば事件の推移に伴ふて情弊の纏綿を來たし魂膽の暗鬪行はるゝこと果して世人の推想せるが如くなるか或は表面に現はれたる事實が事の眞相を語りて餘す處無きか以下民長其他本件に關知せる數名の親しく記者に告げたる處と世評の一端を綜記して以て讀者の判斷に委せんとす（未完）

●米友懇親會の開催 京城在留の官民中には曾つて米國の各大學に學びたる者は市原韓銀總裁小松外務部長を始め十數名あるのみならず猶は韓人中にも米國大學出身者ありて各相當の位置を有する由なれば近日小松外務部長の歸任を待ち米友懇親會を催す由なるが出席希望者は關稅局の飯島氏へ豫め申込むべしとなり

●群山の共進會計畫 湖南線敷設確定に伴うて群山港に對する一般の注意頗る周密を加へ來らむとするを機とし來る四十四年第十二週年開港紀念日前后を期し經費約十餘萬圓を以て同地に一大共進會を開催せむとする議あり坂上民長等目下該問題につき頻りに具体的研究を遂げつゝありと

●ロビンソン氏着京 既報せし如く前米國大統領ルーズベルト氏の姉婿ロビンソン氏夫人令息及び韓人の下婢共に十日午後十時南大門着列車にて新義州まで出迎へたる高橋副理事官及び小原參事補同伴入京一行は直ちにアスターハウスに投宿せりと

●京城會議所委員會 九日午後六時より京城商業會議所に於ては四十四年度の豫算に就き總會を開きたるが結局委員附托となり十一日より委員會を開く由なり因に委員は秋吉、小川、古城、近藤、池田の五氏なり

●大坂商船運賃値下 大坂商船會社は四月十日より門司下關と釜山間の乘客船賃を左の如く引下ぐ

一等八圓二十五錢▲二等五圓五十錢▲三等二圓七十五錢

●韓婦人の軍艦觀覽 仁川在住の韓婦人百五十餘名は一團体を組み碇舶中の第二艦隊を參觀せしが韓婦人の一進步として注目に價せり

●小學生の軍艦觀覽 仁川民團立小學校生徒は十一日午後目下碇泊中の第二艦隊を參觀したりと

龍山通信（十一日支局發）

▲第二師團長松永中將は師團長會議に列席の爲め師團司令部の到着に後れて多分來る二十一日頃着龍の豫定なりと▲今十二日大久保軍司令官はルーズベルト氏令妹ロビンソン氏夫妻官邸に請待し午餐を饗せらるゝ由陪賓は石塚長官、明石、石井の二少將、小倉主計監及軍醫部長等▲十日島村第二艦隊司令長官は大久保軍司令官を官邸に訪問し晚餐の卓を共にし懐談數刻に及べりと▲來る二十五日より約一週東京に於て參謀長會議開催せられ明石軍參謀長及佐藤師團參謀長參列の筈にて明石少將は來る十四五日頃發途東上の豫定なりと▲鎭海灣要塞司令官副官及佐藤永興灣要塞司令官も同上會議に列席すべしと▲軍司令部員一同（司令官參謀長を除く）四十一名は去月陸軍紀念祝典擧行の慰勞會に懇親會を兼ね一昨十日京城花月に於て宴を張れり▲十三日十三聯隊は漢江坊に於て發火演習を執行する筈▲去九日三浦理事官は京龍兩地の民長及民會議員を召集し京龍合併問題に關する意見を聽取したり理事官は熱誠の上右に對する意見を發表すべしと

●庵原課長の歸期 目下馬山灣在中の庵原水產課長は十五日歸京の筈なり

●有本辯護士入京 辯護士有本國次郞氏は十日鎭南浦より入京三日月投宿

▲治外法權▼

豫て噂のあった韓鐵の大改革も今度と云ふ今度は愈やらしい、遠藤剛太郎、石川石代、岡正矣の三君が揃つて總裁官房に入つたのを見ればハヽアーと首づかれる▲京朝所載、京城電報、市原韓銀總裁談に曰く、日韓兩國は假令合併するとしても其經濟には甚しき逕庭あれば到底之を共通にする能はざるべしと▲現時日韓兩國の經濟に逕庭あるは市原君の言の如しだ、而かも此逕庭を無くなる樣にするのが韓銀總裁などの責務だ、到底不可能などとは餘りに對岸の火災視した言だ▲本紙掲載釜山民團外資借入の記事は釜山人士の注意を惹いた樣だ、之でこそ掲載甲斐があると云ふものだ、但し釜山の兩新聞が御存じ無い中に該記事を公にしたのは本紙が嚴に此點に就ては寬宏なる釜山同業者の諒察を願いたいとマア謝罪て置いてこれから兩新聞の外資關係記事を一寸拔いて見よう▲釜山時報君は九日の紙上に民團債の借替なる社說を掲げ其末文に曰く釜山の民團債を二百萬圓と假定し入朱とせば年利十六万圓を要する、之を四朱の低利と借替へれば一年格に八万圓の餘裕があると、而るに十日發行同紙は曰く其の民團債は二三十萬圓か無いと、日報君は九日の紙上に日く果して外資の成立を見るときは一年の金利に於て約五萬圓を輕減せらる々、時報、日報、材料の出處は同じ筈だが記事はマチマチになつて居るコンナ事では本紙の記事が背緊を外れて居るなどと仰有つてもダメだヨ一通民團理事者に聞直したらドーダ

名妓洗髪のれ妻（五）

▽宮様に見初めらる
▽妾は死んでも嫌だ

急にれよねに悪い心の起つたのは、私ア忘れやうたつて忘れられやしないわ確か明治の廿四年でしたか、當時れよねは本所相生町に住つてゐました、私も今ぢや色も香も亡せたものですが、其時は明けて十八の春ですもの、少しは美しかつたのでせう、何れ閑ものにでもする氣で夫れ茶の湯だ生花だと自腹を切つちや通はして呉れました、家内中で私一人が家不相應の服裝をして毎日御化粧三昧に暮してゐるものですから旦那取をしてゐるのだとか或は妾だ手かけだと、近所に評判されたのですが、決してそんな事はありませんでした、れよねの野心はもつと〳〵大きかつたのですわ▲處がある日の事でした私が生花の御師匠さんの宅からの歸り途、文金の島田に結つて思切つて生々しい娘姿、手にはまだ苔の堅い櫻の折枝を持つて本所露座は御茶屋の備前屋の前へ差蒐ると向ふから立派な黒塗の馬車、二頭立なのが砂烟を立てゝ驀然に驅けて來るのです、馬に蹴立てられちやと思つてフイと身をかはす機に、馬車の窓から及び腰になつて外を見てゐらしつたのが私は其時は御誰だか知りませんでしたがデップリと肥つた立派な方、何うせ高貴な方だ位に思つたまんま、歸つてまゐりましたが、此れが大變、或る宮樣だつたのですが、馬車が通過ぎると其まゝ馬丁が引返して來たといふ騷ぎ、私の入る家を突留めて其日は何んの事はなかつたのでしたが、其翌日宮樣の御用人が宅へ御越しになつて、昨日此れ〳〵で備前屋の前で宮樣が御覽になつた娘が、大層御氣に入つて、下々なら妾といふ處だが、相手が何分宮樣だ御傍に侍て御用を聞くといふ事で宮仕へをして欲しいといふ御話なんでせう、私は其んな事とは少しも知りませんなんだ處が例のれよね此んな事もあらうかと思つてゝぐすね引いて待つてゐたのですもの、私にや一言の話もなく、直ぐ自分獨り量見で引受けて、吾々風情の娘をして見れば身の榮華、家の面目ですとか何とか云つて、御用人と約束して了ひ、いつ何日には本人を差上げます其れには支度料といふ寸法なんで宜しいとの事で御用人は三百圓の金を御渡しになつたといふ事、其れも此れも私が戸外から歸つてれよねに話を聞いて知つたわけでした辛いぢやありませんか自分の娘でもないもの、娘だつて本人に知らさないで金を受取るといふ法が無いわ、私や小田にゐた時でも御鐵さんでしたが、れよねに引取られてからは少しは辛い眼にあふにつけ、智慧も附いてゐるが上に持つて生れた疳癖もありまさあね、私は御妾になんぞ死んでも上る事は出來ません、キッパリ切口上で云つてやりました、

金筋の大檢擧

▽他人の仕事で遊食する大惡漢五名の檢擧△

福岡縣生れ士族當時京城蓬萊町八番戸の土方稼森本仙太郎方庄山仙太郎（三〇）長崎縣生れ當時仁川松阪町二の四川尻役太郎（三〇）埼玉縣生れ當時龍山櫻町一ノ八目下龍山署拘留中中田定雄（三九）廣島縣生れ當時京城若草町一の八九多澤敬正（三〇）大分縣生れ當時京城大和町一矢野德太郎（三一）の五名は何れも前科數犯を有する惡漢にして目下は表面請負事業なりと云ふも其實所謂金筋と稱して他人の請負事業に關し談合金を取り美衣美食して其日を送る實に天地容れられざる不敵物にして其筋にては常に注意を怠らざりしが天網遂に洩らさず左の犯人を發見されたり

第一、本年三月十五日内部に於て大邱慶州間橋梁架設工事の入札あるを聞き首領たる庄山は川尻中田等に通知し自宅に呼び集め庄山直接強談に當らず、川尻、今井をして談判の任に當る事を命じ同日午前十一時頃より内部に赴かしめ續いて自分も現場に行き遠くこれを監視し川尻、今井等は配下の者共を率ひ正當入札者の中間に這入り頻りに防害を試みたる、權利者が之に應せず全然競爭入札となり午後一時開札の結果本町五丁目土木請負業の某氏に落札するや某を内部裏門口に招き金錢の強請を試み某の應ずる氣色なきを見て頻りに暴言を吐き若し之れに應せざれば危害を生命に及ぼすと恐喝せしも某は現場を遁かれて歸宅したるに執念くも同人宅に押し掛け強談するにぞ某も後難を恐れて遂に百圓だけ出金せんと言ひしも彼等は多數なるを以て百圓位ひでは事足らずとて三百圓を請求し同日五十圓翌日二百五十圓を捲き上げ前記五名が太平町料理店三福に於て分配し又中田、多澤等は外二名と共に本年三月五日龍山軍司令部に於て大邱憲兵隊の建築入札あるや例の手段を以て龍山岡田組の店員某を恐迫して金八十圓を受取り之を桃山遊廓にて消費し尚は此外多澤は三月廿三日大和町一丁目梅原某宅に至り工事請負に關し短刀を以て脅迫し梅原に創傷を負はしめたる事實あり

右の罪狀一々南部署の探知する處となり此程何れも同署に引致され取調の結果檢事局に送られ目下豫審中なるが如斯惡漢は漸次檢擧して全滅を圖る筈也

●徵兵忌避者大檢擧

▽第一の槍玉に擧る

韓國に於ける居留民にて徵兵を忌避する者多數ある模樣にて憲兵隊に於ては此際一大活動を試み之を檢擧する由なるが既に長崎縣高來郡堂崎村當時京城南大門通り一丁目井上末吉方職人伊藤金四郎（二七）は明治三十八年度に徵兵檢査を受く可き處明治三十六年六月頃出郷后各所に流浪し故なく屆出を爲さずして今日迄惹り居る事を探知され本町憲兵分遣所に於て取調の上檢事局に送られたりと

●亂暴店員拘留　京城太平洞十五統五戸八阪二老吉方店員森氏鶴一（三八）は十日午後八時四十分頃泥醉して南大門通り四丁目及羽衣町附近の同店員寺島某坂下某と三人連れにて高聲にて放歌しつゝ徘徊し居るを韓人巡査が認め之れを制せんとしたるに鶴一外二名は亂暴にもヨボ巡査生意氣抔暴言を吐き街路に放尿せしのみならず韓人巡査を二三回足蹴にしたるを日本人巡査の知る處となり其亂暴を制せんとしたるに貴樣生意氣な巡査位の身分で何知るか俺れが警部に上申して即日免職させる抔種々なる暴言を吐き抵抗を試むるぞ早速鶴一のみ銅峴分署に引致せられ拘留十五日に處せられ他の二人は隙を見て現場より逃走したりと

●婦人の無錢飲食　長崎縣生れの村木キヌと云へるは京仁龍間諸所の料理屋で仲居抔を務め居たる者にて煮ても燒ても食へぬ代物なるが自分の娘は高等官の嫁になつて居る毎月五十圓の扶養料を受けるとかヤレ五百圓の貯蓄金があるとか出放題の大法螺を吹いて諸所を荒らし居る由なるが現に本町八丁目飲食店堤コトと云ふ者の内に來り右の手段で十日間餘り滯在し或る日の如きは色男を引込み來り飲めや食へと一日に三四圓の額に上りしも支拂どて爲さず堤の方でも心配し居る中一寸そこ迄と飛出したまゝ歸り來らぬにぞ止むなく其の筋に出訴の手續きを爲したりとタモ横着の尼女かな

●韓人に欺かる　日本人が韓人を欺き金員其の他の物件を詐取する事は珍らしからぬ事なるが茲に日本人にして韓人より欺れたる事件寧洞憲兵分遣所に取調中なるが其内容を聽くに京城西部居住徐仁壽、黄九鎮の二名共謀して畑地所有地券證を僞造して抵當とし金百二十五圓を本町七丁目梯仙助より借用しながら期限に至るも返濟せざるに依り仙助は之を請求し且つ地券證の眞否を取調べたるに全く僞造券なる事發覺せしに附蒙き入りて寧洞憲兵分遣所に詐欺事件の告訴を提起せしなりと

●金庫を擔ぎ出す　仁川新町二丁目寺本佐太方に兩三日前の午後十一時頃賊忍び入り五十二圓余入りの金庫を擔いで何れ共なく遁亡せし跡にて大騷ぎとなり其筋に訴出づると共に彼の重量なる金庫の事なれば遠くは行くまじと捜索中程遠からぬ路次に匿しありたるを發見したりと

●險呑なる馬乘り　仁川本町一丁目小南商店員稻田兼治（一九）と云ふは一昨九日午後七時頃本町一丁目を乘馬の儘疾驅の際仲町一丁目大和組同居藤富留吉次男清（十二）を蹴飛せしも幸に負傷なかりしが之れを見咎めし警官は兼治を本署に同行し將來を戒めて放還したる由

●朴泳孝の負傷　目下馬山に靜養中の朴泳孝は數日前釣漁に趣きたる歸途誤つて溝渠に墜落し重傷を負ひ直ちに馬山病院に入院助療中なるが生命には別條なかるべし

●京城の素人相撲　來る十五日より三日間本町七丁目京城座前の空地に於て素人相撲を興行する由勸進元は松勇

●月友會の演奏會　南大門外御成町なる鶴崎流筑前琵琶福岡月友會支部にては十日正午より南山臺和樂園にて春季彈奏會を催し伊藤曉雪、佐土原曉山、高田曉村其の他一二子の白虎隊牛草曉水子の常陸丸、和田子の那須の與市、龍山直見子の川中島、伊熊夫人の小督の下、岩本子の平野國臣、松尾夫人の左馬之介の湖水渡し、井上霞曉師の廣瀬中佐等にして家族携帶の參聽者頗る多く稀れに見るの盛會なりき因に來賓席には女流斯道の名手井上千代子女史の靜聽せらるゝあり會員諸子に取りては庭氣味惡くも又張り合ひありしことなるべし午後六時過散會したり

●五雲會例會　來る十七日午前十時より大和町三丁目梅の家に於て同會四十回例會開催同好者の參會を希望すと其の番組左の如し

杜若（兒島氏、小竹氏）實盛（加納氏、水越氏、ツ河内氏）葛玉（安西氏、志賀氏）草紙洗（田淵氏、王和田氏、賀上村氏、立坪井氏、河合氏）櫻川（澁谷氏、鏡氏、男筋瀬氏）山姥（長谷氏、ツ西尾氏、小杉氏、源氏供養（熊谷氏、中田氏ツ大久保氏）以上

●カルボー屋の失敗　平壤大港部酒昌洞居住李德化（四二）は一昨年迄は兵役に從事し、大漢門衞專務なりしが解隊後多少の貯蓄ありしと見へ平壤より娼婦を雇い來り本町一丁目裏通りに於てカルボー屋を營み居りしも不幸にして昨年十月頼みとす可き娼婦死亡せし爲め再び雇入の資金もなく困難の余り阿片を飲み且つ數ケ所に於て竊盜を働きたる事中部署の刑事に探知せられ目下捕へられて同署に取調中なりと

●拾得物の數々　仁川本町三丁目網木仙吉長男清毅（一七）は九日同町三丁目にて金子若干在中の財布を同じく仁川小學校高等科二年生濱本甲一は新町にて金十錢を同花町一丁目荒木タケは新町にて銀側懷中時計を同新町三丁目永井仙次郎は五十錢入の財布を拾得其筋に屆出でしが心當りの者はなきや

●水兵の劇場看物　仁川民團より歸二艦隊乘組下士以下に歡迎の意を表する爲め目下歌舞伎座にて興行中の活動寫眞縱覽劵を寄贈せしが十日夜の如き同座は各水兵を以て充たされ其數二百餘名の多きに及び各自多大の歡興を盡したり

●瑞龍寺の上棟式　龍山祝町瑞龍寺住職藤田然師は年來托鉢して得たる淨財を以て本堂新築中なるが來る十七日上棟式を擧行するに際り龍山居留民數百名を案内して齋を饗する由倒案内を受けざる向も續々參詣せられんことを住職は一向希望し居れり

●葬式に來ぬとて毆打　東部崇教坊水之洞金玉善は酩酊して北部洞金景集宅に來り貴樣は先月俺の家に葬式ありしに故なく加勢にも來ぬ不都合千万な奴だと暴言を吐き且つ毆打せし廉にて東部署の說諭を受け放免せらる

●飲代の抵當に腰卷　仁川龍洞韓人宿止宿中の鳥取縣生れ山崎善市（三四）と云ふは一昨九日午後七時頃内洞酒幕朴仁德方にて廿五錢の無錢飲食を爲せし爲め京町派出所より警官出張說諭の上腰卷を抵當に提供せしめて事濟み

●掻浚ひ捕へらる　仁川畜洞居住の梁在秀（二五）と云ふは九日支那町墨野千太郎方前に置きありし桃の木を窃取し新町通りにて賣口を捜索中其筋の手に捕へられ說諭の上放還さる

●少女の行衞不明　京城若草町一丁目四十二番戸根來直賜長女うた（十二）は九日午前九時頃家出の儘歸宅せざるに付寧洞分遣所に保護方願出でたりと

筑前琵琶 演奏會寸感（上）

至誠は天に通ずとも鬼神を泣かしむとも云ひ正直の頭に神宿るとも云ひて正直は人の世の寶である相な尤も正直も馬鹿の内とか何んとかの例外はあるが此れは即ち例外で異實は人の世の寶である相な、だから僕は正直に正直にと世を渡つて居る、尤も五六の例外はあるが夫れは即ち例外である。

演奏會寸感は正直の内の撰拔き一粒撰りである、云はゞ上等の正直である、一斤幾何に賣つたら儲かるか其所迄は未だ研究してない。

閑話休題、近來僕は琵琶と浪花節と白粥と拂當に入つてる淨瑠璃の句ひとはドウも好かなくなつた、琵琶や浪花節を聽いてるよりは氣の利いた叱言を聞いた方が胸が透く、淨瑠璃の句に至つては絶對に嫌だ、掘りヲ屈と何方が宜いかとあれば掘りでも散しでも此の方を結構とする、併し此れは萬已む場合九死一生の時に限ることは勿論である琵琶が厭になつたのは織田某のケレン淨山のを聞いたからに初まり、浪花節の厭になつたのは祭文讀みの實錄ぶははりが癪に障るからである、松田琵琶君去りて以來、琵琶を聞いて見樣との氣は興らなかつたのが何うした機會かつ張り出されて和樂園に筑前琵琶の彈奏を見た、敢て聽いたと云はぬ、時頽五六子の立て續けに白虎隊の頽廢は惡れ入つたが、三ケ月乃至六ケ月の修業としては皆さん立派な出來榮ねであつた、琵琶の構ひに附いては全体に注意せられたい（紫生）

目と耳

▲京城座　十二日の替狂言は『百鬼夜行盤若面』全十一場にして登場人名は畜生木村（今井）車夫吉（花井）下僕忠介（千葉）助十、代議士深澤武（川崎）桐島夫人（金澤）畜生清一（桂木）桐島朝子（田中）署長山村準一（高山）陸軍中尉榎山忠直（高島）巡査、坊子（潮）陸軍大尉柳原義一（浮田）權三（異部）桐島鐵子（小西）桐島みす、仲居れはつ（秋岡）蔵の清吉（瀬川）尚は本日より女形小西三之助を加へ一同大車輪にて勤むる由なり

▲龍山座　京城黄金町なる高等演藝館地方部にては今十二日より三日間龍山座に於て京城本部が觀客とアツト云はせたる至極鮮明にして最新奇拔なる活動寫眞を興行する由

今日の運勢

四月十二日（舊三月三日）二黒　佛滅丁未平△一白　新事及連盟協同鑑婚姻養子事談囚何情義に騙られて損毫を來す勿れ△二黒　誘招提言より失却を招く勿れ兒女飼畜從者より損害を受くるの恐れありとす△三碧　改革整理轉任轉業に良好其他不事の日とす△四緑　些少の無駄若くは煩累あり事始め結婚打合せ凶△五黄　貸借質買保證業務上の旅行に凶其他平凡△六白　盗害横領を防ぐべし其他消事の日とす△七赤　入門事始め披露命名に良好なり親しき間に禮を亂す勿れ△八白　轉業轉住改革整理及心機一轉の行動良好雇入兒女の事注意すべし△九紫　會見　會同相續會識に吉他は概して平凡

●天氣豫報（自十一日午後六時 至十二日午後六時）（本町五丁目三一號判所）

北西の風晴

十一日（華氏）最高温度 五七、六　最低温度 四〇、八

美術半襟帯締其他紐類各種
京城明治町一丁目　電話一千四百〇九
ゑり徳商店

廣告

木材賣却廣告
一鴨緑江松材現木
長サ八尺五寸以上二間半
一尺五寸角以上二尺迄
右木材多數所有致し居候に付特別安價に賣却仕候間御望の方は御來談被下度願上候
京城旭町三丁目
建築業　柴田芝六
電話五百六十八番

●北越及西陣絹織物直輸入
●京都美術御染物謝り元
龍山老松町九〇取次電話三二六
越後屋商店
御報次第参上仕候月賦提供の便法あり

營業品目
藥種化粧品、薪炭類
日用食料品、諸雜貨
龍山元町四丁目（電話六三八番）
電話又は葉書にて御一報御用相伺申候
武藏屋

ふちや
金庫が盗難に物はらず十二分の御便利と賜り迅速御相談に應じ貨物は叮嚀に取扱堅めて安全に一定の場所に保管す
京城綿町
大槻商行質部
流質品と云ふも場所の許す限り可成長期御大切に留保し高價遺漏なきを期す

●●●滋養と牛乳●●●
純良
牛乳
京城東四軒町
岡野牧場
電話壹〇六九番
●●●衛生と消毒●●●

代理店
京城南大門通三丁目
新井藥房
電話九百四番
振替口座韓國千六十八番十六番

金魚各種
卸小賣
龍山山下町一丁目（兵器支廠官舍入口）
陸軍御用達　馬木勇吉本店
電話三六四番
京城本町五丁目一番戸角
茶器商　馬木勇吉支店
電話四七一番

明治廿年七月創立●京城代理店　本町四　山口呉服店　電話九番
東京火災運送海上保險株式會社
資本金一千萬圓●事務所　京城南大門通二　電話一〇六〇番

柄の新しい氣の利いた織物!!
價は廉くて品の確かな雜貨!!
三越は日本に於ける唯一のデパートメント、ストーアあり。されば三越は呉服太物を始め洋服、貴金屬、小間物、化粧品、文房具、玩具等苟くも東京の流行品、又は日用品たるものは悉く販賣仕候。三越へ御注文あらば、御用の品々は早速小包にて御届け可申上候。「御注文案内書」を發行いたし居候間御申込次第進呈仕候。
東京　三越呉服店

移轉擴張
今般左記へ移轉し從來の業務一層確實且つ迅速を旨とし貴需に應じ可申候
京城本町一丁目（民團役所前）
代書　仲介
衛藤事務所
主任　衛藤
（電話七〇五番）

生徒募集
和洋裁縫、造花、盆石、茶の湯、生花、御料理、即席及普通教授
右親切叮嚀を旨とし教授致候御相成候方は出教授仕候
寄宿舍の設備も有之又造花材料も備置申候
龍山老松町六十七番戸龍山橋通取次電話一二九番
佐藤セキ
五島チカ

天井壁張
並に
表裝一式
龍山大島町
尾崎表具店

宮内省御用品調達
營業科目
和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐デシン
穀物食鹽
諸染料類

委託販賣
東京ランバート商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
藤田合名會社
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約
釜山…合資會社…特約

本社　京城明治町二丁目（電話二三〇番）
出張所　東京京橋南鍋町一丁目　東京地新橋三六九二（十番電）

味噌醬油製造元
漬物問屋
特約販賣
京城本町五丁目
大上商店
自製　支那白菜漬　朝鮮菜葉漬　大賣出し
（電話二五一番）

各科診療
南山町二丁目
松岡醫院
電話六七五番
入院隨意

一御仕出し
一煙火
一西洋音樂隊
一洋御注文に應じ御申付け候
ボート新造中のもの七八人乘二艘、五人乘四艘、三人乘一艘
右御仕度御來遊奉願上候
（但軍人學生ニ割引）
屋形船　かし船　ボート
龍山元町河岸
久留米
漁獵園
遊船部
電話一〇番

熱湯消毒
牛乳
京城大和町一丁目
電話
平山牧場

本店　東京市日本橋區兜町
支店及出張所　大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、四日市、下關、新大阪町（東京）、兵庫、伏見、西區（大阪）、釜山、其他日本韓國各地並に海外樞要の場所に爲替取引先有之候
銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候
資本金　一千萬圓
積立金　五百四十萬圓
株式會社第一銀行京城支店
電話一一番　六一一番

移轉廣告
會席御料理
弊店儀開業以來各位の御引立に預り日增しに隆盛に赴き候に就ては從來の家屋にては手狹を感じ申候に付左記へ移轉致し大勉強にて料理は十分に吟味致し候間何卒御光來の程伏して奉願上候
京城旭町一丁目（元笠目舍跡）
葉櫻
電話二〇七番

道しるべ
鯛　松たけめし　一人前三十錢
あなご　竹の子めし　たなしく
鷄　ゑんどうめし　たなじく
兼てなじみの大阪美人、御光來の程を待ちかねて居りますから、御賞味を賜はりたう、尙ほ多少によらず出前も仕ります、與々も御用命伏して御願申上げます
大和町三丁目
梅の家眞向ひ
電話七三五番
明月

美術書畫
襖、壁、天井張
京城壽町二丁目
桂萬吉
（電話六二七番）

開業御披露
今般左記の處に開業致し粹檬方の御來車を待申候
京城本町八丁目橫入初音町
待合貸席
松廼家
電話千三百九番